

ぶんこだより

子どもたちと、もっともっと絵本を楽しんでもらいたいから…

「ワンダ・ガアグ」

8 AUG
2026



岩波書店の「図書・2026.8」の表紙は、ふわふわのトトロのお腹の上で眠るメイたちです。トトロも目をつむり、メイも、小トトロも目をつむり、それは、それは安心した様子に、ホッとする一枚なのです。

それをいい文章で紹介しているのがあさのあつこです。「トトロのお腹の上で眠りたい。これって、人間の究極の夢じゃないだろうか。妄想ではなく、かなり現実的な感覚の気がする」「どこまでも柔らかくて、温い。でも、しっかりと

支えてもらっている」「誰からも傷つけられず、誰も傷つけなくてすむ」「トトロの上のメイのように、ぐっすり眠ること」…「なのに、この世界の大人たちは」「むしろ、その場所を奪ってしまう」「戦争、虐待、飢餓、支配…熟睡を許されない子たち」。

「トトロのお腹の上で眠る」メイたちの様子、それを別の絵本で描いてきた一人が、ワンダ・ガアグです。

間違っはいけないのは、この世界、大人たちの歴史が作ってきた「戦争、虐待、飢餓、支配…」が隠された現実としてではなく、戦争、虐待、飢餓、支配を直視しながら、それでも、だから、「トトロのお腹の上で眠る」メイたちのもう一つの世界を、描いてきたのが、ワンダ・ガアグの絵本の世界です。

100まんびきのねこ



「100まんびきのねこ」(訳：石井桃子／福音館書店、1961年)の1ページ目は、「むかし、あるところに、とても としとった おじさんと、とても としとった おばあさんがすんでいました」で始まります。周りに花が咲く 2 人のこじんまりした家、住んでいる 2 人の姿も、とってもとってもお

だやかです。ですが、「うちに、ねこが 一びき いたらねえ」で始まる物語は、言ってみれば「戦争、虐待、飢餓、支配」する人間の、いいえ、ねこねこねこの世界です。「私も私も私も…」で、おじいさんのもとに集まる 100 まんびきのねこたちは、「…おいかけたり、くいついたり、ひっかいたりして、それは それは、たいへんなさわぎ」になります。その結果、「ねこが 一びきも いなくなつて」「きっと、みんなで たべっこして しまったんですよ」となり、残っていたのは「ほねと かわばかりにやせこけた ねこ」になります。

絵本の最後に描かれるのは、「こねこに みるくを たくさん のませましたら、こねこは まもなく、かわいらしい まるまるとした ねこ」になり、若かった頃のおじいさんとおばあさんの写真の飾られた部屋で、ゆったりと過ごす様子です。

確かに、実は、「ねこが 一びきも いなくなつて」「きっと、みんなで たべっこして しまったんですよ」が描かれるのですから、「100 まんびきのねこ」は、一方でとってもとってもこわい絵本なのですが、ワンダ・ガアグはしかし、その事を決して避けずに「人間の究極の夢」、たとえば子どもたちに、「トトロのお腹の上で眠る」夢を届けているのだと思います。

すんだことは すんだこと



ワンダ・ガアグ 四話・五 佐々木マキ ゆく

「すんだことは すんだこと」(訳：佐々木マキ／福音館書店、1991年)は、副題が「または 家のしごとがしたくなった おやじさんのお話」です。「これは わたしがまだ小さな女の子だったころに、おばあちゃんが話してくれた、ふるい、ふるいお話です」で始まります。始まりますが、なんのなんの、「おばあちゃんは、小さな女の子だったころに、おばあちゃんのおじいさんから、このお話をききました。

おばあちゃんのおじいさんは、ボヘミアのおひゃくしょうの子どもだったころに、おじいさんのおかあさんからききました。」

「ふるい」ということを、子どもたちに伝える時、この伝え方くらい、子どもたちに伝わる伝え方はないくらい、見事な、ワンダ・ガアグの子ども理解、子どもに対する態度が示されています。

そして、実は、物語は、まさしくそんな内容なのです。「または 家のしごとがした

くなった おやじさんのお話」なのです。

人間の歴史の「原始」の時代に、まことしやかに男は「狩り」、女は「家事」に分かれたというように、歴史は描かれたりします。人によって、その働きは向き不向きはあったでしょうが、男と女で働きを分けるのは、たぶんそれを描く歴史家の捏造に違いありません。それが苦痛である反面、それがおもしろいということは、やってみれば狩りには狩りの、家事には家事のおもしろさがあることは、間違いないからです。

言ってみれば、そんなあたりまえは、「ふるい」「ふるい」時代からあたりまえだったことを、ワンダ・ガアグは冒頭の「話してくれた」で、とっても解りやすく子どもたちに伝えます。

「理屈」で「無理やり」「聞かせ」で、子どもたちに納得させる事はできなくはありませんが、大人はとかく、それで可能だと思ってしまいますが、ワンダ・ガアグは、決して決してそんな事はしません。なぜなら、そうでなくても、子どもたちに届く表現があり、届くことを共有できる子どもと大人の世界がそこにあるからです。



たとえば「100まんびきのねこ」「すんだことは すんだこと」そして、「スニッピーとスナッピー」（作・画：ワンダ・ガアグ、訳：さくまゆみこ／あすなろ書房、1999年）などです。

「しあわせ」というものは、ぼんやりそこにあるのではなく、スニッピーとスナッピーのように、思いがけず始まった、危険な冒険があって、何とか切り抜けた時に、もう一つの別の本当の「しあわせ」世界があること、それが「スニッピーとスナッピー」です。そして、中でも子どもの「しあわせ」というものは、その実現に欠くことができないのが、物語の始まりに描かれる、「家族」です。そして、その家族に必要なのが、無条件の助け手の存在です。

冒険があって、危険があって、助け手の登場があること、ワンダ・ガアグは、そんな子どもたちをめぐる世界を、絵本の絵の世界で、子どもたちに届けているように思えます。

ワンダ・ガアグについて、東京子ども図書館に問い合わせましたが、適切なものが見つからず、こぐま社が発行しているガアグの日記を少しだけ、参考にさせてもらいました。「ワンダ・ガアグ 若き日の痛みと輝き 『100まんびきのねこ』の作者が残した日記」（著：ワンダ・ガアグ、訳：阿部公子／こぐま社、1997年）より。



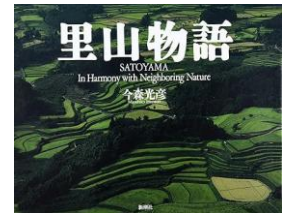


絵本とともに

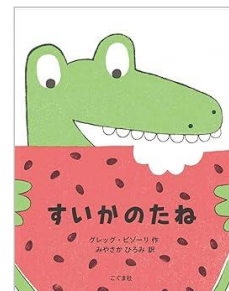
～絵本とともに、子どもと歩む日々～



7月のまち食堂では、「お化けの真夏日」（著：川端 誠／BL 出版、2001 年）を読ませていただきました。「夏と言えば～〇〇」が、たくさん登場します。蚊取り線香、虫とり、すいか、かき氷、花火、朝顔、子どもたちの宿題、水まき、風呂上がりのビール、浴衣に甚平、流しそうめん...夏にやりたいことが、た～くさん詰まっています。そして、本の一番後ろのページにはこんなことが記してありました。「ノコギリクワガタのいる雑木林のシーンは、写真集『里山物語』（著：今森光彦／新潮社、1995 年）の中の写真を参考にしました。写真の利用につきましては、今森光彦さんの了解を得ております。」こんな風に作家さん同士がつながっているのを知るのも、絵本ファンとしてはわくわくします。また、「お化け」がたくさん登場しますが、明るくて、みんな仲良しです。暑い夏の日に読むのにはもってこいの 1 冊です。

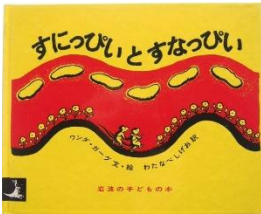


ある日のこうどうぶんこでは、「すいかのたね」（作・画：さとうわきこ／福音館書店、1987 年）と「すいかのたね」（作：グレッグ・ピゾーリ、訳：みやさかひろみ／こぐま社、2021 年）を読ませていただきました。そうです、同じ題名の絵本です。1 冊目の「すいかのたね」は、ばばあちゃんのお話です。いつも元気でびっくりするようなことをやってのけるばばあちゃん、今回はなんとすいかの種を叱りつけてしまいましたよ。さて、その種はどうなるのか...2 冊目の「すいかのたね」はユーモアたっぷり！リピート率が高く子どもたちが大好きな絵本です。この夏、おいしいすいかのお供にすいかの絵本はいかがですか？



「すにっぴいとすなっぴい」

(文・絵：ワンダ・ガーク、訳：渡辺茂男／岩波書店、1979年)



ねずみのきょうだいのお話です。おとうさんねずみは、ねずみがよむ、とても小さい『ねずみしんぶん』を声に出して読んでいます。一番よく読む記事は...そう、大きい台所の戸棚の中にある、大きい黄色いチーズのことでした！それを聞いたねずみのきょうだいたちは「チーズのいっぱいはいった だいどころのとだなが みつけられればいいわねえ。」と、大冒険に出かけることになるのです。だって、きょうだいたちは「チーズがだいすきすき」で「チーズがだいだいすき」だから...我が家の兄弟たちが小さい頃に、ねずみのきょうだいたちを応援しながら読み聞かせたのを覚えています。

余談ですが...海外のお話に登場するねずみたちは、決まってチーズが大好きですね。このお話を聞き終わった後に、息子が「ねずみはチーズを食べるの？」と聞いてきました。どうなのでしょう？日本のわらべうたには「俵のねずみが 米くって ちゅう♪」というフレーズがありますね。少し調べたところ、ねずみのチーズ好きは、昔のヨーロッパの生活習慣やアニメの影響で広まったイメージだそうです。ねずみとチーズが出てくるお話で思い出されるのが「番ねずみのヤカちゃん」（さく：リチャード・ウィルパー、やく：松岡享子、え：大社玲子/福音館書店）です。「やかましやのヤカちゃん」が繰り広げるお話なのですが、お母さんねずみがねずみの子どもたちに伝えたいことを、歌にして伝えているところがすてきだなと思いました。低学年くらいの子どもたちが一人で読むのにもぴったりの1冊です。

「へんなどうぶつ」

(文・絵：ワンダ・ガーク、訳：渡辺茂男／瑞雲舎、2010年)



山奥に住んでいる、優しいボボじいさんは、どうぶつたちが来るのを待っていました。おいしい食べ物をたくさん並べて待っていました。りすたちにはくるみのケーキ、ことりたちには種入りのプティング、うさぎたちにはキャベツのサラダ、ちいちゃいねずみたちにはちいちゃいチーズ・ボール。ところが、ある日突然やってきたのは、犬にも麒麟にも似ている変な「どうぶつ」。そして、この変な「どうぶつ」が言うには、自分は「どうぶつ」ではなく、「どうつぶ」だと。この「どうつぶ」から、こど

もたちの平和を守るために、ボボじいさんが考え出した作戦とは...優しくて真面目なボボじいさんと、食いしん坊でやんちゃで見栄っ張りな「どうつぶ」とのやり取りを、ぜひお楽しみください！

ガアグの絵本は、黒一色で繊細に描かれていることが多いです。色がない分、集中して絵を見ることができる気がします。動物たちがボボじいさんからもらった食べ物を食べるページや、山の下に掘ったボボじいさんの家のページは必見です。ガアグの表現する世界に見入ってしまいます。

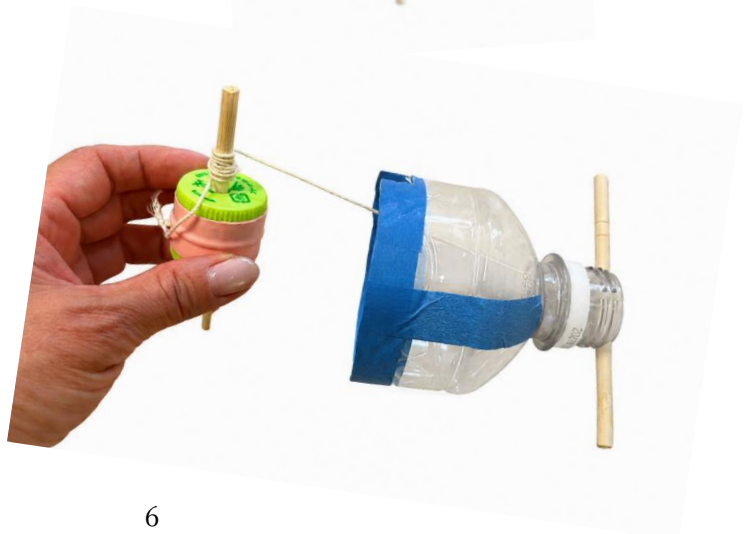
今月のつくって！あそぼう！

びゅんびゅん高速コマ

ひもを引っ張って、
ビュンビュン高速で回転！

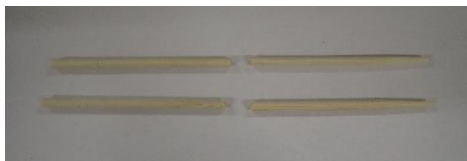
【材料】

- ・ ペットボトルのフタ 2つ
- ・ 炭酸のペットボトル（500ml）
- ・ 丸いわりばし
- ・ ビニールテープ
- ・ 風糸（50cm）

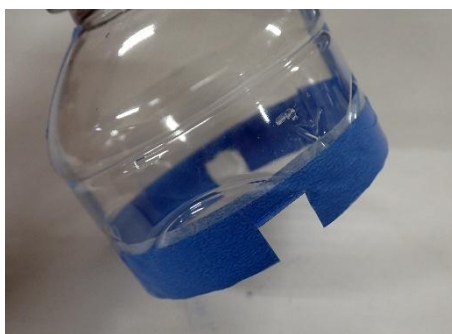


【作り方】

- ① ペットボトルのフタに穴をあけて、半分に切った割りばし（尖った方）をさす。反対からもう一つのペットボトルのフタを合わせて、マスキングテープで止める。



- ② ペットボトルを、底からおおよそ 13cm ぐらいのところで、切る。
切り口部分一周を、マスキングテープで、保護する。
対角部分に、1cm 角ぐらいの切り込みを 2 箇所入れる。



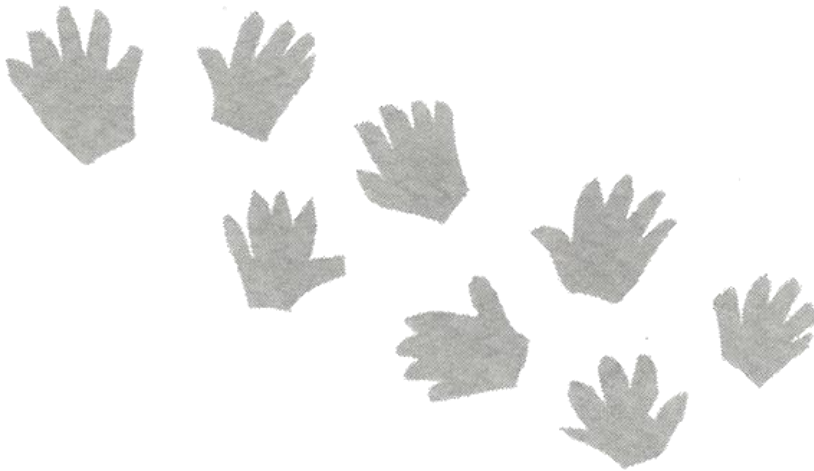
- ③ 残りの半分の割りばしに、50cm の風糸を縛り付ける。
図のようにペットボトルに通して、コマの棒に風糸を巻く。スタンバイ OK！



今月のわらべうた

♪ おてぶしてぶし

おてぶしてぶし
てぶしのなかに
へびのなまやけ
かえるのさしみ
いっちよばこやるから
まるめておくれ
いーや



「おはなしのろうそく24」(東京子ども図書館編)より

♪ とんぼとんぼ

とんぼ とんぼ このゆびとまれ

とんぼ とんぼ めをまわせ

まわせ まわせ めをまわせ



♪ おてらのおしょうさん

せっせっせーの よいよいよい

お寺のおしょうさんが

かぼちゃの種をまきました

芽が出て ふくらんで

花がさいて

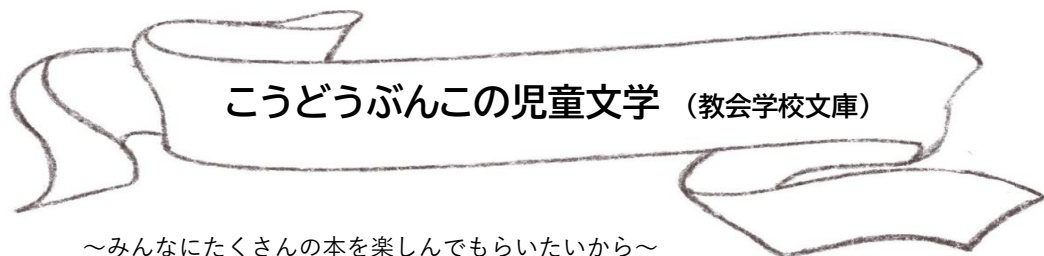
ジャンケン ポイ

♪ ぼうさん ぼうさん

ぼうさん ぼうさん どこいく の わたしは たんぽに いねかり に

それなら わたしも つれしゃん せ おまえが くと じゃまにな る この

かんかん ぼうず くそぼうず うしろの しょうめん だ あ れ



「空はみんなのもの」

(文：ジャンニ・ロダーリ、訳：関口英子、画：荒井良二／ほるぷ出版、2024 年)



昨年本屋さんで偶然出会った一冊。

「空って、みんなの空だよ。誰の目にも同じように映り、決して足りなくなることもない。それなのに、どうして大地は境目だらけなんだろう？」

少年の純粹且つ鋭い問いかけが軸になっている絵本です。

本書は 60 年前にイタリアで発表された詩です。ウクライナ侵攻やパレスチナ情勢など、地上で国境を巡る激しい戦争が続く現在の世界を背景に、改めて平和を問いかけるために絵本化されました。難しい言葉はいっさいありません。政治的主張もまったくありません。「空」と「大地」その対比だけで強烈に印象付け、読者に考えずにはいられない心情を与えます。作者ロダーリは 1920 年に生まれ、第二次世界大戦を経験しています。その説得力には頷くしかありません。

荒井良二の柔らかな色合いと伸びやかな線が描き出す、明るくどこまでも自由に広がる空。その美しい風景の先に、控えめに描かれる大地の境界線…。その争いの気配を感じさせる見事な演出が、より深く強く、平和を願うメッセージとして迫ってきます。

日本では、終戦の時期に戦争についてクローズアップされますが、戦争は世界のどこかで今この瞬間も起きています。ロダーリの思いは時代を越えて人々へ問かけたいですが、平和を願い続けなくてはならない状況にあることが悲しいとも感じてしまうのも事実…。

一人でも多くの人が手に取り、そして、身近な場所に置いて欲しいと願う一冊です。

こうどうぶんこ によこそ

「こうどうぶんこ」は、およそ 50 年前、石井桃子の「子どもの図書館」
(著：石井桃子／岩波書店、1965 年) に促されるように、教会礼拝堂の隅
っこに 2 本の本棚に絵本を並べて始まりました。

始めてみて、何よりも驚いたのは、読み聞かせする大人と絵本に、いわば
「我を忘れて」向かってくることでした。子どもは、絵本・本が大好きなの
です。

「こうどうぶんこ」は、「絵本・本好き」の子どもたちの力で続いてきました。

「こうどうぶんこ」によこそ！

「こうどうぶんこ」は、集まってくる子どもたちの絵本と児童文学の「お部屋」です。



1、会員になってください

「こうどうぶんこ」の会員になってください。登録だけで、入会金・会費は不要です。2025 年
より毎週水曜日（不定期で、お休みの時もあります）。

借りるのも、返すのも、午後 3 時～4 時 45 分まで。

2、ぶんこの部屋

「こうどうぶんこ」は、絵本の貸し出し（読み聞かせ）、朗読、わらべうた（マザーグース）、な
ぞなど、言葉であそぶ時間です。

3、1 度に借りられる冊数

1 人につき 5 冊まで。

4、貸出期間

2 週間

5、利用登録

本を借りられる方は、お名前、住所、連絡先などの登録をしてください。

6、お問合せ

〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22

西宮公同幼稚園内 こうどうぶんこ

TEL：0798-67-4691

FAX：0798-63-4044

MAIL：koudou@gamma.ocn.ne.jp





こうどうぶんこ



日時：毎週水曜日 15 時～16 時 45 分

場所：ぶんこの部屋（西宮公会教会付属 西宮公会幼稚園）



September 9 2026

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21 敬老の日	22 国民の休日	23 秋分の日	24	25	26
27	28	29	30			

October 10 2026

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12 スポーツの日	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

編集後記

私たちが編集・発行しています。ご意見や感想、お聞きになりたいことがありましたらお声かけください。

菅澤・濱・田場・金澤